

# 鶴の声

Vol.2  
2010.6

## 編集 staff

監修：片山 嘉政（鶴声会 副会長）

編集長：小山 陽介（鶴声会 事務局長）

製作スタッフ：岡村 晃平 新谷 太一

## 編集後記

「鶴の声」もVol. 2が完成しました。発行にあたり、ご協力くださった卒業生の皆様、誠にありがとうございました。今号の大きなトピックとしては、第2期生の林原郁雄先生が音楽学部長に就任され、卒業生としては大変嬉しいニュースとなりました。同窓会と大学との連携もより一層強くなり、今後様々な事業への協力・応援が必要になってまいります。卒業生皆様方には、今後とも変わらぬご支援を賜りませうようよろしくお願いいたします。



くらしき作陽大学 片山 嘉政

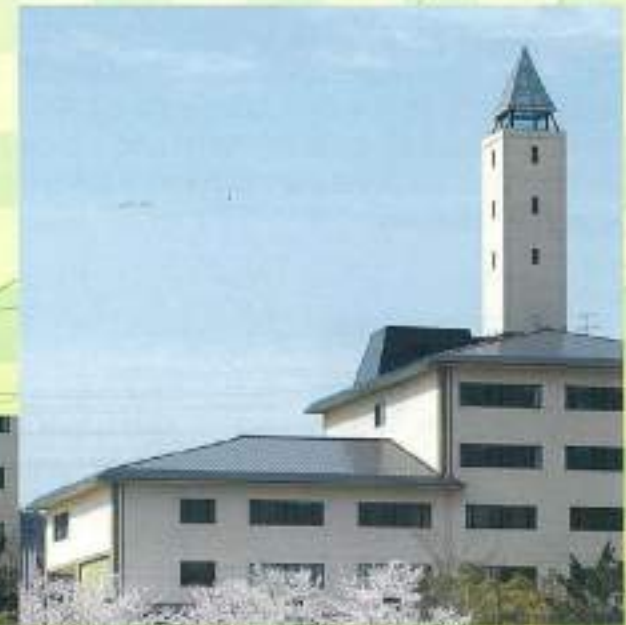
## contents

### 同窓生の声

鶴声会近況報告

くらしき作陽大学イベント情報

他



### <平成22年度くらしき作陽大学鶴声会 総会のご案内>

日時 平成22年 8月28日(土)  
 総会 13時00分～  
 演奏会 15時00分～  
 懇親会 18時30分～  
 会場 総会、演奏会・・・高知県立美術館ホール  
 懇親会・・・高知新阪急ホテル

～詳細は、同封の文書をご覧ください～

くらしき作陽大学同窓会鶴声会  
 〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515

TEL 086-523-0888

FAX 086-523-0811

katayama@ksu.ac.jp

## ごあいさつ



### くらしき作陽大学鶴声会 会長 井端 豊実

(音楽学科4期生)

同窓会事務局から「あいさつをお願いします。」との優しい電話。「え！もう。」一年に一度の発行予定で取り組んでいる鶴声会会報「鶴の声」の原稿依頼でした。昨年記念すべき第1号を発刊して早や一年。私も今年度で定年退職を迎えますが、本当に時の経つ早さをしみじみと実感しています。

会員の皆さん、その後、お変わりございませんか。

去年は、季節はずれの新型インフルエンザが流行、政権交代、いまだに出口の見えない金融危機。今年になっても相変わらず目まぐるしく変わる社会の変化に、分かっていても即応できないのが現状です。こんな時は、悠々と流れていた懐かしい音を少し思い出して見てはいかがでしょうか。心を癒せる一番の特効薬になるかもしれません。

おかげさまで、多くの会員の皆さんから「鶴の声」の感想をいただきました。また、各県支部などの集まりにおいても話題のひとつとして取り上げていただき、反響の大きさに驚くと同時に感謝の気持ちで一杯です。また、住所不明者につきましても掲載させていただきましたが、皆さんから情報を寄せていただき、少しずつではありますが判明しております。今後とも協力よろしくお願いします。

ところで、鶴声会総会は二年に一度行っておりますが、本年8月28日に高知県で開催します。とくに、高知県は県支部創立35周年を迎え記念すべき年でもあり、大学からは打楽器アンサンブルに出演していただき花を添えていただきます。今、話題の「龍馬」の地で多くの会員の皆さんに集っていただき、旧交を温めていただければ幸いです。高知県支部の皆さんには色々とお世話になりますが、どうかよろしくお願いします。最後に、会長様方の今後益々のご活躍とご健勝を祈念し、あいさつとさせていただきます。



### くらしき作陽大学 学長 松田 英毅

卒業生の皆さんお元気ですか。

今年の1月20日に後輩の学生たちが新しい大きな演奏会をやってくれました。学園創立80周年記念演奏会でプラハ文楽楽団と合同の演奏会をやったのです。ドイツ語のわからない学生たちがうまくやれるか心配でしたが、ゲネプロも、本番もわきあいあいとして、プラハの回員はかわいい弟か妹の面倒を見るように優しく教え、ティンパニーは演奏をゆずりあい、弦は譜面台をはさんで親しく語り合っている様子さえ見えました。演奏会は2,000名の聴衆を魅了する、とにかく素晴らしい演奏会でした。演奏が済んだ後、トップを弾いていた学生に「君、ドイツ語話せたの？」と聞きましたら「いえ、ロシア語です。コンサートマスターの彼女はロシア人でしたから」というのです。彼女はモスクワコースの学生で、ロシア語は必須でマスターしていたのです。後の打上げのとき、大阪の大手新聞社の文化担当記者いわく「作陽の学生さんは、個人技術では確かに東京の一流音大の学生に劣るが、しかしアンサンブルについては、上をいくのではないか」との話でした。入学した時から比べると、学生たちの日頃の熱心な練習の成果が十分に上がり、かなり腕も上達しているようです。

作陽の学生のこの気質は音楽に限らないようです。先日、食文化学部栄養学科の学生の管理栄養士国家試験の発表がありました。作陽は合格率84.3%、合格者数75名。合格者数では中・四国の大学の中で1位で、全国108大学中上位1/4に入る成績でした。学生たちの入学時の偏差値はあまり高い方ではなかったのですが、合格者数では国公立大学に勝り、合格率もそれらの大学に見劣りしない成績をおげたということは在学の4年間、教員の指導もさることながら、学生がいかに頑張ったかを示しています。

このように学生たちが秘めた能力を在学中に大きく伸ばすことは作陽の学生の伝統的気質であり、大きな誇りでもあり皆さんとともに喜びたいと思います。

## 鶴声会近況報告

鶴声会副会長 片山 嘉政

近年、支部単位の活動もますます活発になり、卒業生のコミュニティーも和が広がってきています。鶴声会の各支部などの事業などをご紹介いたします。

平成22年2月に香川県支部総会が開催されました。香川県の支部長が十河様から藤田様に交代され、新人演奏会の企画など新たな取り組みなどが計画されました。

平成22年5月に鶴声会と高知県支部と大学がタイアップして吹奏楽楽器別クリニックを実施しました。高知県の音楽普及活動の一環として在学生と卒業生が500名の中・高校生の楽器クリニックを実施しました。

平成22年6月28日には九州新人紹介演奏会が行われ、昨年度卒業した方だけではなく九州在住の卒業生も出演いただきました。またくらしき作陽大学教授、チェロのフェイゲン先生がゲスト出演され、素晴らしい演奏で観客を魅了していました。

近年の問題として「若年層の参加が少ない」「個人情報の関係で名簿の作成が難しい」など様々な課題がある中、まずは出来ることから始めるという気持ちが生まれています。お一人が同級生やお知り合いに声をかけていただき、ますます大きな和になるようご協力をよろしくお願いいたします。

また、今年は高知県にて総会を開催いたします。皆様の元気な姿を拝見できる事を心より楽しみにしております。季節柄どうかご自愛いただき、総会にご出席いただけますようお願い申し上げます。



### 同窓会開催情報

2010年6月12日に1993年3月音楽学部教育音楽学科(24期生)の同窓会(下記写真)が倉敷市玉島のセントイン會館で行われました。参加者の皆さんはセントイン會館に集合した後にくらしき作陽大学にお越し頂き、藤花ホールや聖徳殿などキャンパスの見学をされました。

キャンパスを見学された後は、セントイン會館にて懇親会をなされ皆さん近況報告や、大学時代の話などをして大いに盛り上がりました。



### 学内にいる同窓生の紹介

小山 隆介 (2001年3月音楽学部 教育音楽学科卒)

皆さんこんにちは、私はくらしき作陽大学を卒業し、大学事務局長として現在入試広報室にて働いております。今年の3月まで博多で九州エクステンションセンター員として、同窓会業務(鶴声会事務局、新人演奏会の開催等)および九州を中心に学生募集活動を担当させていただいておりましたが、九州エクステンションセンターの業務移転に伴い今年度から自衛隊に引き継ぎ業務を担当しております。これまで、九州の卒業生の方々には多大なご協力を頂きましたこと心より感謝申し上げます。また、今後も卒業生の方々には何かとお世話になるとは思いますが初年よりよろしくお願い申し上げます。

### 役員会組織図





作陽名物のあの人。  
なつかしのあの方は今…  
今回は鶴声会副会長の安部欽也さんと  
高知県支部長（県人会会長）の村田卓洋さん  
にご登場いただきます。

# あ の 人 は 今

## 村田 卓洋 むらた たかひろ

### 経歴

S.54年4月・作陽短期大学音楽科入学  
S.56年4月・作陽音楽大学音楽学部3年次編入  
S.58年3月・作陽音楽大学卒業  
S.58年4月・高知市立西部中学校赴任  
H.13年6月・森本正史税理士事務所  
勤務 現在に至る

現在は何をされていますか？

税理士事務所に職員として勤務の傍ら、高知市消防音楽隊の指導・指揮、高知工科大学ウィンドブラスの指導・指揮、高知コーラス合奏団副指揮者として活動。  
2001年より作陽高知県人会支部長（県人会会長）を努めています。

学生時代の思い出を教えてください。

- ①主科であるトロンボーンレッスンの全てが英語だったこと。（おかげで4年間でずいぶん英語のヒアリングが身につきました。最初はチンブンカンブンでずい分ととまどいました。）
- ②短大から編入することが出来、Bass Trombone に変わり益々楽器を吹くことが楽しくなったこと。
- ③大学へ入って初めてトロンボーンアンサンブルを経験し、アンサンブルの面白さに目覚めたこと。
- ④やっぱり同級生にすごく恵まれていたと思います。



印象に残っている先生の  
名前を教えてください。

ベア・ガーデ先生、新田厚先生

たくさん思い出の詰まったキャンパスだと思いますが、学生時代好きだった場所などありますか？

当時キャンパスは津山市にありましたが、プレハブの金管練習室、学内にあった吉田楽器、女子学生の香水の匂いに酔いながら（化粧の匂いにかなりやられました）昼食をとった短大の学生食堂、残響のステキな大講義室（トロンボーンアンサンブルでよく使わせてもらいました）等、今でも鮮明に覚えています。

最後に同窓生にメッセージを一言お願いいたします。

自分達の頃と比べると施設やいろいろなハードの面ではずいぶん恵まれていると感じます。反面、人間関係（同窓生、同郷生等）が少し希薄になっているような気がします。音楽はもちろんですが、学生時代の大きな財産は友達だと思います。大いに学び語り合って絆を深めて欲しいと思います。

## 安部 欽也 あべ きんや



S.47年4月 作陽音楽大学入学 打楽器専攻  
S.52年3月 作陽音楽大学卒業  
以後 岡山市立高松中学校教諭として赴任  
岡山市立香和中学校教諭として赴任  
岡山市立芳田中学校教諭として赴任  
岡山市立京山中学校教諭として赴任

部活動は吹奏楽部の顧問、転属した全ての中学校において「中国大会」に出場する。  
現：岡山県中学校吹奏楽連盟 副会長

現在は何をされていますか？

岡山市立京山中学校の教頭として勤務。

学生時代の思い出を教えてください。

当時の作陽音楽大学は津山市内を流れる吉井川のほとりに位置し、桜の名所「鶴山公園」を望む風光明媚な環境にありました。その頃の学生は、九州や四国・中国地方を中心に全国各地から集まり、有名音大に「追いつけ、追い越せ」「負けてたまるか」といった意識が学生の中に沸々とわき上がっていました。また、よい意味で学園に「自由さ、気楽さ」があり、とても過ごしやすかった。と記憶しています。さらに、指導・支援して下さる先生方も熱心に根気強く、「すごいでございました。」あの時は、学生も教員も同じ目標に向かい、学園を上げて頑張っていたような気がします。個性的で魅力溢れる先輩が沢山の「活力のある、よき作陽音楽大学の時代」だったように思います。

印象に残っている先生の名前を教えてください。

岡山県人会の美人姉妹「辻本友子（姉）先生」お元気でいらっしゃいますか。お世話になりました。講習会で旅館から大学まで車で送迎していただいた「ファゴットの三原先生」。吹奏楽では「(故)新田厚先生」、伴奏付けの「寺岡先生」。また、大阪フィル名誉指揮者の「(故)朝比奈隆先生」の指揮での演奏会はとても記憶に残っています。

たくさん思い出の詰まったキャンパスだと思いますが、学生時代好きだった場所などありますか？

合奏や演奏会でお世話になった大講堂。たくさんの授業を受けた402号室。501号室。誕生日だと言ったら吹奏楽のM先輩（ファゴ・現、広響団員）とその一団に、開上げの後事務室前にある、あの「噴水」に落とされた1年生の春。

最後に同窓生にメッセージを一言お願いいたします。

わたくし、九州は大分県生まれ。温泉地の別府を離れて37年。現、岡山県人。  
昨年、菊井氏から「鶴声会の副会長をやれ」の一声（鶴の一声？）に、「ハイ」と承諾し、副会長を任命されました。打楽器専攻だった安部です。「鶴声会、会員の皆様！いつでも、岡山で待っています。」是非、ご連絡ください。

# 特集!!

## 林原郁雄

### 新音楽学部長に聞きました!



今年度より音楽学部長に就任されました林原郁雄先生にお話をお聞きしました。



はやし いくお  
林原 郁雄 音楽学部長

昭和41年生 音楽学専攻音楽学専攻専攻専攻 卒業

2、学部長職の任務を遂行していく中のレッスン等はどうですか?

レッスンも授業も、やはり、今までその仕事を中心にしてきましたので、音のある世界に戻ってきたなという「ほっ」とする瞬間があります。また、今回学部長の職務を支障なく遂行するために、非常勤講師の先生をお願いして、職務を全うできる環境を作っていたことは、大変助かっています。

1、卒業生として初めての学部長就任という事ですが、今の心境をお聞かせください。

みなさんから言っていたくほど、自分の中には「卒業生として」という特別なものはありませんが、言われるたびに「大学をよくしていかなければならない」という重責を強く感じてきています。また、想像はしていましたが、とても大変な仕事ですね。レッスンや授業の忙しさとは全く違って、会議が非常に多くなるのは必然ですし、会議をするということはその議題を熟読しておくという時間が必要になります。そして、その会議もただ消化するのではなく、大学をよりよくする為に実を伴わなければなりませんので、会議を開催するにあたり書類の作成、事前の打ち合わせ等、私なりのやり方で日々業務を遂行しています。

3、林原学部長の学生時代の思い出を聞かせてください。

もちろん、クラリネットが中心でしたが、学生時代には、エレキバンド、フォークソング、合唱など、やりたいことをやっていましたし、大人の音楽に憧れて、フルバンドなどの演奏も経験しました。どれも若さを発散する為に必要だったのでしょね。どれも中途半端ではなく、非常に熱くなってやった思い出が多いですね。中でも、プロの演歌歌手のバックバンドをした事もありましたが、今思い出すと、怖いもの知らずの「ぞっ」とする思いでのひとつです。



4、同窓生へメッセージをお願いいたします。

わが母校は、誕生してまだ半世紀に満たない大学ですが、同窓生のみなさまの中には、作陽で学んだ4年間で今も付き合える友達や、尊敬できる先生方に出会うことができたことを喜びとし、その延長線上に今日があると思っている方が多いのではないかと思います。では、現在のくらしき作陽大学音楽学部には、今も40年前、30年前と変わらない状況があるのかと問われたら、自信を持って「はい」と答えられない気持ちがあることは確かです。

したがって、私の任務の中心は、音楽学部を活性化することと、本学の使命であります「菩薩道を歩むプロの養成」の具現化であると考えています。そのためには、「教員自らが学生のために菩薩道を歩むプロの手本となる」こと。また、「学生のために時間と労力を惜しまず、情熱をもって教育にあたる」こと。このふたつの実現こそが、まさに学部長としての使命であると考えています。こういうときであるからこそ、同窓生の皆様には大学を振り向いていただき、更に大学を活性化させる後押しをしていただきたいと思います。時間が出来ましたら、皆様の前に参りまして親しくお話しさせていただきたいと考えておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。



# 同窓生の声

とよおか しょうこ  
**豊岡 省子さん** 平成22年度 食文化学部栄養学科卒業

主科の先生または思い出の先生の名前を教えてください。

川田順先生、藤原尚子先生、山下静江先生、室家典子先生、小野高貴子さん(事務)など、他にも色々多くいるんです！

学生時代の思い出を教えてください。

4年間の大学生生活の中で、たくさんのお会いがあり良い思い出ができました。中でも心に残っているのは、ゼミで株式会社マルイ様と共同開発した食育弁当作りで、何度も試行錯誤をして1つの商品を作り上げた事と、そして一生涯付き合っていける友達に出会えた事です。また、国家試験に向けて切磋琢磨できたこともとても有意義な時間でした。

現在の活動を教えてください。

地元の精神科の病院で栄養士をしています。5月からは粥食を食べられる患者様の食事を担当させて頂き、先輩方に助けて頂きながら忙しい毎日を送っています。

同窓生にメッセージを一言お願いいたします。

在学中には色々な方にお会いお世話になり、多くのご迷惑をおかけしたと思いますが、最後までありがとうございました。辛い事もありますが、皆様に負けない様にマイペースを崩さずに前進していこうと思いますのでよろしくご指導、ご鞭撻の程、お願いいたします。



はやかわ えいじ  
**早川 英一さん** 昭和40年度 音楽学部音楽学科ピアノ専攻卒業

主科の先生または思い出の先生の名前を教えてください。

主科の先生は酒井忠正先生です。

学生時代の思い出を教えてください。

今時の学生にくらべて、とにかく貧乏な学生生活でした。コンビニもなくインスタント食品も無い時代ですから毎日食べることに苦労してました。そんな時、助かったのは「フレンド」という食事ができる店があったことです。付けで食べさせてもらってました。元気の良い女将さんが居て、付けが溜まると怒られていましたが、かわいい姉妹の娘さんたちが目当てでみんな集まっていた。学部の5期生で男子が多い学年で、学園祭でも暖やかに「山に祈る」の合唱をした記憶があります。また、学生運動の激しい活動が目立つ世の中で、当時日本原駐屯地に全学連が集結するため津山の作陽音大を拠点にするという噂を聞き、夜中に大学を守るため男子学生が集まったことがあって妙に団結していました。

現在の活動を教えてください。

熊本県立熊本北高等学校勤務、熊本県高等学校文化連盟理事長、熊本県吹奏楽連盟理事長、熊本少年少女合唱団長、日本吹奏楽部指導者協会熊本県部会長、熊本県文化懇話会員等いろいろやっています。

同窓生にメッセージを一言お願いいたします。

もうすぐ定年を迎えますね。みなさんお元気ですか。学生時代の顔しか浮かびません。お互い長生きしましょうね。

現在、色々な分野で活躍している同窓生の皆様に学生時代の思い出など、お話を聞きました。



かたやま ましひろ  
**片山 舜さん** 音楽学部音楽学科3年

姉がくらしき作陽大学に在学しているということもあり、高校1年の時から講習会に参加しました。この当時はまだ自分が音楽の道に進むとは考えていなかったのですが、初めてのレッスンで、レベルの高さに刺激を受け、何度も参加するうちに、もっと深い音楽を教えたいと思うようになりました。またこの大学は、美しい緑の自然に囲まれており、音楽を演奏するにあたり大切な、心を豊かにし、素晴らしい感性を育てるという環境に優れていると思い、進学を決意しました。このような中で技術を磨き、将来は音楽に携わる仕事に就くとともに、色々な場所で演奏活動をし、聴いて下さる方々に感動していただけるような演奏家になりたいと思っています。



まえだ さえり  
**前田 沙織さん** 食文化学部栄養学科2年

私は、幅広い栄養の知識を持った管理栄養士の資格の免許を取得したく、くらしき作陽大学に入学を決めました。現在は、食品衛生学実験や栄養学実習・臨床栄養学実習といった実習等を通して、より実践に近い勉強をしております。将来は、病院などの医療施設で糖尿病や高血圧などの病気を患っている患者さんや、メタボリックシンドロームの患者さんに栄養指導を行いたいと思っています。



いきた にせ  
**沖田 仁世さん** 子ども教育学部子ども教育学科3年

私は保育士・幼稚園教諭・小学校教諭という3つの免許を取得できるというところに魅力を感じ、子ども教育学部に進学を決めました。日々同じ夢を持った仲間達と共に勉学に励んでおり、また実習や地域の小学校でのボランティアなどを通じて現場での実践力を高めています。私の将来の夢は小学校教諭です。狭き門ではありますが、一人ひとりの子ども達との出会いを大切に、共に笑い、共に学び、共に成長していけるような教諭を目指していきたいです。







